

第 13 回
おかやま環境教育ミーティング
実施報告書

2026 年 9 月
かんきょうひろば事務局

1. 概要

- ・日 時：2026年8月19日（水）
 午前の部（ブース展示） 10：00～11：30
 午後の部（分科会、全体会）13：00～17：00
- ・会 場：岡山コンベンションセンター
- ・ブース出展：42団体
- ・進行役：大森哉絵氏（NPO 法人だっぴ コーディネーター）
- ・参加者：285名（午前：169名、午後：116名） ※事務局スタッフを除く

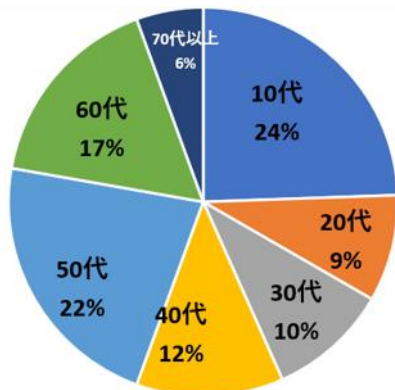


図1. 参加者の年代（N=90）

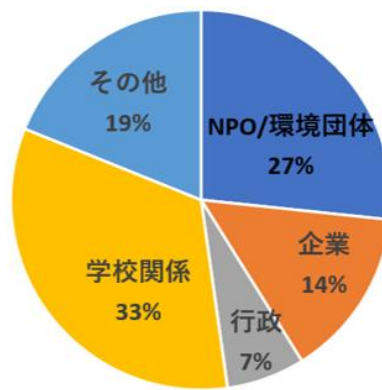


図2. 参加者の所属（N=90）

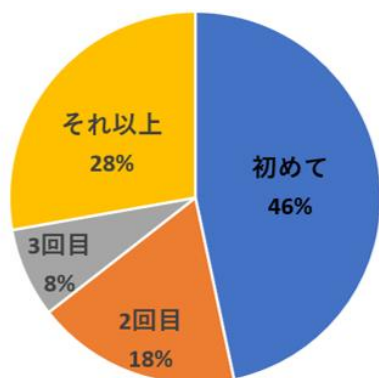


図3. 参加者のこれまでの参加回数（N=90）

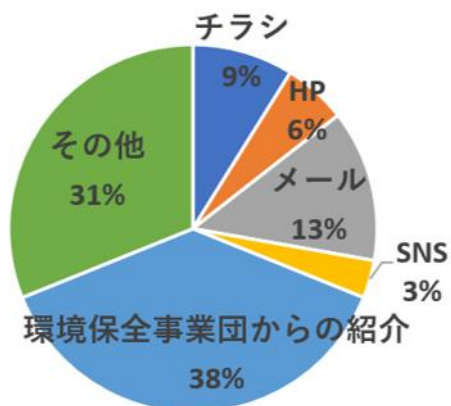


図4. 参加したきっかけ（N=90）

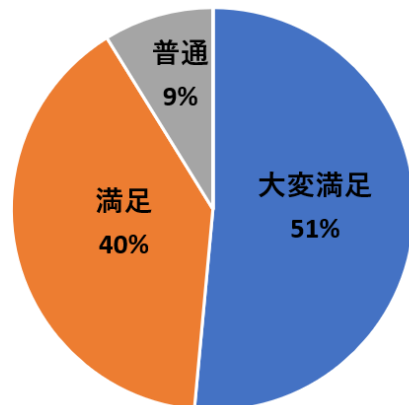


図5. ブース展示の満足度（N=68）

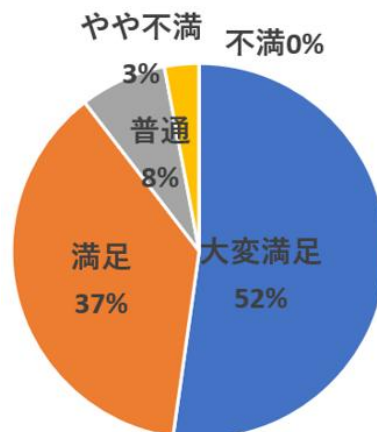


図6. 分科会の満足度（N=67）

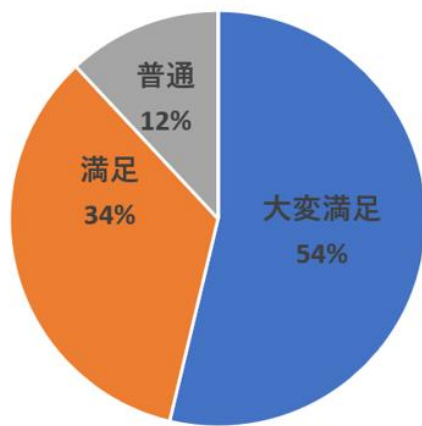


図 7. 全体会の満足度 (N=67)

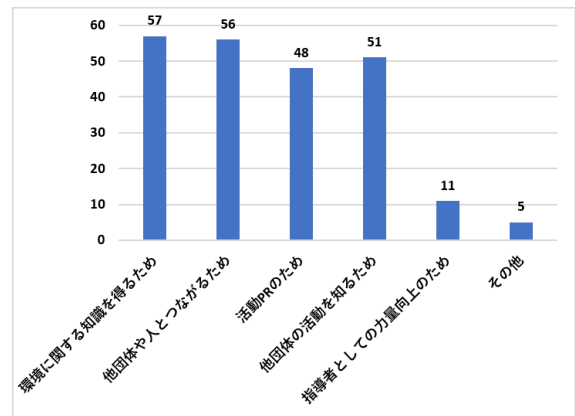


図 8. 参加目的 (※複数回答あり)

2. 全体スケジュール

時刻	内容
10:00～ 11:30	ブース展示 ・ブース交流 (42 団体) ※自由来場、自由交流
12:30	受付開始 (午後の部)
13:00	開会挨拶、趣旨説明 ・おかやま環境教育ミーティング実行委員会 実行委員長 黒田聖子氏 ・岡山県環境学習協働推進広場「かんきょうひろば」事務局 多田正和
13:10	オリエンテーション ・NPO 法人だっぴ コーディネーター 大森哉絵氏 ・今の気持ちと今日持ち帰りたいもの
13:40～ 15:40	分科会 ・事例発表、体験活動を通じた学び、情報共有等 (5 テーマ)
16:00	全体会 ・NPO 法人だっぴ コーディネーター 大森哉絵氏 ・ふりかえり、わかちあい
16:50	閉会挨拶、クロージング、写真撮影 ・おかやま環境教育ミーティング実行委員会 副実行委員長 有吉修亮氏 ・岡山県環境学習協働推進広場「かんきょうひろば」事務局 多田正和
17:00	閉会

3. 内容

ブース展示

- ・午前の部（ブース展示）は自由来場制とし、誰もが気軽に参加できる交流の場として企画・実施した。今回は、十分な昼食時間を確保するため、開催時間を 120 分から 90 分に短縮した。アンケート結果および現場での聞き取りからも、開催時間が 90 分であっても高い満足度が得られたことが確認された。
- ・当日は、子どもから大人まで幅広い世代の来場者が各ブースを訪れ、展示や体験を通じて、環境問題や環境保全活動について学ぶ様子が見られた。
- ・企業、NPO、学校、市民団体等がブースを出展し、会場での交流を通じて、出展者と参加者、出展者同士、参加者同士の間に新たなつながりが生まれるとともに、今後の行動につながる情報を得る機会となった。

表 1 ブース出展団体一覧（42 団体）

1	岡山県 アースキーパーユースチーム
2	公益財団法人 おかやま環境ネットワーク
3	公益財団法人 水島地域環境再生財団
4	一般社団法人 北房観光協会
5	NPO 国際協力研究所・岡山（ICOI）
6	NPO 法人 おかやまエネルギーの未来を考える会
7	新見市市民環境会議
8	STOP 温暖化くらしき実行委員会
9	岡山西温暖化対策地域協議会
10	Crew ～小・中・高校生が主役の環境活動チーム～
11	釣り人みんなで、ごみ拾い
12	桃環プロジェクト
13	正宗幸子（with FASHION co.）
14	醸氣玄
15	おかやまエコマインドネットワーク
16	グリーンコープ生協おかやま
17	岡山水産物流通促進協議会
18	岡山県森林インストラクター会
19	岡山県シェアリングネイチャー協会
20	倉敷市自然の家
21	自然体験リーダーズクラブ
22	くらしき標本ラボ
23	小山はるえ
24	もりとくらし OKAYAMA
25	EARTH SCHOOL
26	環境学習プラザ「アスエコ」

27	中国四国環境局
28	岡山 ESD 推進協議会
29	倉敷市環境学習センター
30	JICA 中国
31	岡山県立倉敷工業高等学校
32	岡山県立玉島高等学校 サイエンスチームたまっくらボ
33	岡山県立矢掛高等学校
34	岡山県立水島工業高等学校 工業化学科
35	倉敷市立黒崎中学校
36	ノートルダム清心学園 清心中学校・清心女子高等学校
37	岡山理科大学科学ボランティアセンター
38	アサヒ化工株式会社
39	藤クリーン株式会社
40	株式会社西日本アチューマツトクリーン
41	あさくち de eco る課！！ さとしょう de eco る課！！
42	ネクストイノベーション株式会社



開会挨拶、オリエンテーション

- ・オリエンテーションでは、参加にあたってのチェックインを行った。参加者同士で簡単な自己紹介をした後、現在の気持ちや期待度をジェスチャーで表現した。
- ・今回は新たに、「本音のアンテナ」として、自身が感じた興味や疑問を大切にし、他者とありのままに話してみるなど、午後の過ごし方について案内した。
- ・最後に、楽しみながら主体的な学びを得るための心構えを共有した。

		
開会挨拶	オリエンテーション	会場全体

分科会

- ・分科会は5つのテーマに分かれて実施した（詳細は下記参照）。
 1. いのちと地球はつながっている ～みんなで見つけよう 今日からできる脱炭素アクション～
 2. 伝統工芸をヒントに「生み出す」への探究 ～伝統の手触りから、日常の当たり前を問い直す～
 3. 地球と共に生きるために ～声を聴きあう 手を取りあう 希望を育てる～
 4. SNS・アプリ時代の新たな環境教育の可能性
 5. 環境でつながる！ユース×企業 交流ミートアップ
- ・分科会は、複数のテーマに分かれて実施した。
- ・各分科会は、今年度の「おかやま環境教育ミーティング」実行委員会を中心に、講師やファシリテーターと連携しながら企画・運営した。
- ・環境教育、環境問題、価値観の変容に関するテーマなど、多岐にわたる内容を取り上げた。一方的な講義形式にとどまらず、参加者同士の対話や意見交換を大切にした。
- ・各分科会では、参加者が互いの考えや実践に触れ、自らの意見を発信することで理解を深め、楽しみながら学び合う活発な交流の場となった。

① いのちと地球はつながっている ～みんなで見つけよう 今日からできる脱炭素アクション～

【話題提供者】 中西正憲（アサヒ化工株式会社）

横田啓（岡山協立病院、みどりのドクターズ）

【実行委員】 中西正憲（アサヒ化工株式会社）

横田啓（岡山協立病院、みどりのドクターズ）

【概要】

命や健康と環境問題は別のものだと思われがちだが、実は深く結びついている。熱中症患者の増加のような直接的影響、新たな感染症の出現と言った間接的な影響もある。私たちを含めた生き物の命と地球を守るために、今日からできるアクションを模索した。

【実施内容】

- ①中西氏による話題提供 地球温暖化とダニ媒介感染症の増加・セアカゴケグモの生息範囲の拡大との関係について
- ②横田氏による気候変動と健康・医療との関係についての話題提供、グループディスカッション

【まとめ】

- ・ゴールとしていた気候変動と健康との関係については考えてもらえた。
- ・参加者からは「気候変動は健康に悪影響だと分かった。そのために食べるものを少し変えてみたり、運動することが大切だと分かった。」「プラネタリーヘルスという言葉は初めて聞きました。自分の生活がどれくらい二酸化炭素を出しているか見直せたので良かったです。出来るところから改善してみたいと思います。」「地球の健康と人間の健康が相互依存的ということが面白かった」「とても分かりやすかった。セアカゴケグモに興味をもてた」というような感想があった。
- ・「いろいろな知識を得ることが出来大変有意義でした。」「とてもわかりやすく、身近なすぐできることを教えていただきとてもよかった。」「気候変動が健康に及ぼす影響について、あまり詳しく知らなかったので、とても勉強になりました。」という意見もあり、参加者の学びも深まったと思われる。
- ・「講師の話が長すぎる。グループワークが出来ないまま（お互いの実践状況の交流・自分でもやってみようというポジティブな意欲想起）が出来なかったのは、参加者のじぶんごと化を阻害し、時間の使い方がまずいということと反省すべき。」という意見も出たので、次回は話とグループワークの時間配分についてさらなる協議を行いたい。

② 伝統工芸をヒントに「生み出す」への探究 ～伝統の手触りから、日常の当たり前を問い直す～

【話題提供者】 有吉修亮（美咲町立柵原学園・任意団体タマリ）

【実行委員】 有吉修亮（美咲町立柵原学園・任意団体タマリ）

【概要】

- ・ 伝統工芸（備前焼）と使い捨て文化（プラコップ）、そして江戸時代の循環型社会をヒントに、現代の「当たり前」を問い直す分科会を実施した。江戸時代は「灰」を農業や染物などに徹底的に再利用し、限られた選択肢から工夫して生み出す暮らしをしていた。
- ・ 一方、現代は便利な反面、無自覚にプラスチックなどを消費・廃棄している。本分科会では、この利便性により失われつつある「生み出す力」に焦点を当て、自身の持ち物から無自覚なプラ製品を見つけ、別の選択肢を考えるワークを行った。
- ・ プラスチックを単に悪とするのではなく、無自覚な消費習慣に気づき、自ら考え選択する力を取り戻す重要性を共有した。

【実施内容】

①アイスブレイク・チームビルディング

- ・ 自己紹介と共通点探しによるチーム名決定（例：「昭和」「好きのため」など）

②備前焼とプラスチックコップの対比

- ・ 「キャンプに持っていくなら？」「捨てるなら？」という問いかけから、現代の選択肢の多さと使い捨ての無自覚さを考える。

③江戸時代の循環型社会から学ぶ

- ・ 260年続いた江戸時代のエコシステム（究極のリサイクル）。
- ・ 「灰」の多様な活用（農業、染物、石鹼、焼き物の釉薬など）と、現代の焼却灰（厄介者）の対比。
- ・ エネルギー（ろうそく）の当時の価値（1本1万円相当）について。

④当たり前を問い直し「生み出す」ワーク

- ・ あずま袋がポリ袋に、うちわがハンディ扇風機に変わったように、自分たちで「生み出す」必要がなくなった現代社会を確認。
- ・ 自分の持ち物から「無自覚に手に入れたプラ製品」を見つけ、どう関わり方を変えるかを考える。

⑤まとめ

- ・ 無自覚な消費習慣をリセットし、当たり前を疑い、自ら選択し「生み出す力」を持つことがこれからの時代に必要

【まとめ】

- ・ 伝統工芸品をヒントに、江戸時代の循環型の暮らしについて知ること、今の暮らしがいかに消費社会かということに気づき、消費に対する「責任」を考えるきっかけとなった。現代社会は、生み出す必要がないのではなく、ある一定の開発者が生み出したものを「活用するかしないか」という判断をする時代である。プラスチックは悪ではなく、今の自分に必要なものかどうかの考え判断する力が必要だという

ことを参加者が共有できた。日常の当たり前と向き合い、プラスチック製品や生み出すことへの意識が少し変化したとを感じる。

- ・歴史（江戸時代）や伝統工芸（備前焼）という切り口から環境問題や消費行動を考えることで、参加者同士のコミュニケーションが自然と深まり、多角的な話し合いが促進されていた。現代の「便利さ」が、実は私たちの「生み出す力」や「考える力」を奪っているという視点に、多くの参加者がハッとさせられていた。
- ・「普段、無意識のうちにプラスチック製品をもらったり使ったりしていることにハッとさせられた」「江戸時代の『灰』の徹底した再利用や、当時のろうそくの価値の高さに驚いた。昔の人の『生み出す力』はすごい」「クリアファイルやビニール袋など、身の回りの当たり前を疑い、ひと呼吸おいて考えるきっかけになった」といった声が多く聞かれた。

③ 地球と共に生きるために ～声を聴きあう 手を取りあう 希望を育てる～

【話題提供者】 日置三津子（ワークショップそらりす）

【実行委員】 日置三津子（ワークショップそらりす）

高田暢々華（岡山大学 大学生）

【概要】

環境教育の基本である「つながりの発見」と「かかわりの実践」を大切にし、心と体を動かしながら学び合うワークショップを実施した。参加者は、さまざまな活動を通して「私とあなた」「私と社会」「私と自然」とのつながりについて考え、互いの感じ方や考え方に触れる中で、新たな気づきを得た。また、一人ひとりが自分自身と周囲との関わりを見つめ直すことで、これからの行動やつながりを考えるきっかけとなった。

【実施内容】

- (1)導入・挨拶
- (2)ワークショップ①「宇宙船地球号」
- (3)ワークショップ②「地球への恩返し」
- (4)まとめ

【まとめ】

中学生から大人まで幅広い世代が一つの場集り、それぞれの思いを共有することができた。参加者からは「地球という大きなテーマについて、自分の生活から考えることができた」「自分とは違う考えを聞くことで、新しい視点を持つことができた」というような感想があった。地球環境を自分の暮らしや身近なことと結びつけて考えてもらえたと思う。また、環境問題を誰かに任せるのではなく、自分自身も解決に向けて行動する一人であるという意識を持ち、自分にできることを考えるきっかけとなった。「環境問題について考えるとき、自分の考えだけでなく、他の人の気持ちや考えも大切にしたい」という意見もあり、他者との対話を通して多様な価値観に触れることで、環境問題への向き合い方についての学びも深まったと思われる。

④ SNS・アプリ時代の新たな環境教育の可能性

【話題提供者】 中藤駿氏（株式会社バイオーム）

木口友裕氏（小学生）

池元小春氏（ノートルダム清心女子大学大学生）

【実行委員】 黒田聖子（ノートルダム清心学園 清心中学校・清心女子高等学校）

難波妙子（高梁市成羽美術館）

【概要】

- ・近年、SNS やスマートフォンアプリは、人と自然をつなぐ新たなメディアとして注目を集めている。いきものコレクションアプリ「Biome（バイオーム）」の開発経緯を学び、実際に野外での体験を通じてアプリの操作方法を習得する。
- ・デジタルツールを用いた自然観察を体験することで、参加者自身が今後の日常的な活用方法をイメージし、これからの時代における新たな環境教育のアプローチについて考える契機とする。

【実施内容】

- ①実行委員より挨拶、全体の流れ説明
- ②中藤駿氏（株式会社バイオーム）より講演
- ③木口友裕君から活動報告「Biome で見つけた 生き物との出会い」
- ④池元小春さんから活動報告「Biome を3週間使って感じたこと」
- ⑤1階のエントランスへ移動し、自然観察、動植物の撮影
- ⑥会場へ戻り、実際に「Biome アプリ」へ投稿
- ⑦#機能を用いて投稿内容の共有
- ⑧中藤氏より今後の可能性などまとめ

【まとめ】

- ・「Biome アプリ」を軸として、開発者側の視点と利用者の視点とを同時に紹介し、自らも体験してみることで、当該アプリへの興味を総合的に高めることを目的に企画した。参加者の多くはアプリ初見だったが、すでに活用しているヘビーユーザーも含まれていた。終始積極的に耳を傾け、楽しそうに活動に参加する様子から、会の構成内容や時間配分は適切であったと思われる。特に、「屋外での生き物さがし」を取り入れたことで、動きがある飽きない分科会になった。
- ・当初は「SNS・アプリ時代の環境教育」というテーマから「発信・啓発」の側面を想定していたが、実際にアプリのコンセプトに触れ、使ってみると、本アプリが環境教育に果たす別の特徴が明らかになった。すなわち、アプリの導入によって、一人ひとりのユーザーが身の周りの環境（生きもの）に意識を向かわせ、その多様性に気付けるという点である。初見の参加者からは「（会場まわりの）限られた環境にも関わらず、さまざまな動植物が見つかって驚いた」「家に帰っても使い続けたい」「（家でも）生きものを探して早くバッジ取りたい」といった声が多く聞かれた。
- ・「生物の特定」という部分では学術アプリには劣るものの、Biome は「生きものを見つけて・記録し・共有する」というシンプルなステップにより自然とのふれあいを楽しむことを目的としている。身近な生物環境のドアを開けてくれる本アプリ

は、誰もができるネイチャーポジティブアクションとして、環境教育に大きな役割を果たしていると感じられた。

⑤ 環境でつながる！ユース×企業 交流ミートアップ

【話題提供者】 田頭聡子氏（株式会社あすと設計事務所）

難波孝行氏・木山祐子氏（下津井電鉄株式会社）

井上麻衣子氏（株式会社中国銀行）

野崎哲弘氏・重森伸晃氏（中国電力株式会社）

大塚健夫氏・平尾亜由美氏（ネクストイノベーション株式会社）

【実行委員】 長門正憲（岡山ガス株式会社）

沼田有貴（岡山大学大学院 大学院生）

【概要】

「環境問題の自分ごと化」をテーマに、参画企業各社による環境への取り組みやエコに関する専門知識の紹介とワークショップを実施した。ワークショップでは、各社が提示した問い課題に対し、参加者が企業担当者と共にアイデアを創出。最後には全体で話し合いの成果を共有し、環境とビジネスの密接なつながりを深く考察する有意義な分科会となった。

【実施内容】

- ①各企業様からの話題提供
- ②ワークショップ（グループワーク）

ワークショップ各社の課題と意見

- あすと設計事務所「温暖化は身近な部活動やスポーツに影響が出ているか？」
→天然の日陰を作るための植林や緑化、熱中症リスク回避のための活動時間の変更等 エアコンの普及で熱さに順応できない、ウィンタースポーツへの影響
- 中国銀行「地域の自然を守ることを、地域の仕事やビジネスにつなげるには？」
→自然保護団体と企業をつなぐマッチングの場、保護活動の商品化、市場調査等
- 中国電力「電力安定供給とカーボンニュートラルの両立について」
→2者の両立の難しさ、節電（ChatGPT を無駄に使用しない）、木質バイオマス発電等
- 下津井電鉄「利用者減少が続く路線バスを、未来へどうつないでいくか？」
→ももちやりと連携、どこでも乗れる・降りれるバス、夜バスの運行等
キャラクター提案、バス停の改善
- ネクストイノベーション「農業の担い手不足や気候変動に対応するこれからの農業インフラについて」
→若者の就農率 UP（休み・高収入等）、儲かる仕組みのパッケージ化等

【まとめ】

- ・中高大生の参加者は少なかったものの結果的に多世代での交流ができ、それぞれの経験を尊重し合いながら意見交換される様子が印象的だった。
- ・参加者からは、「馴染みのある企業の抱えている具体的な課題まで知る良い機会になった」「共にワークショップに取り組むことで交流が深まり、有意義な時間となった」「もっと話し合いたかった」「企業からのエコ情報を生活に取り入れたい」といった声が寄せられました。企業側にとっても、参加者参加者の多角的な視点から「普段の業務では思いつかない斬新なアイデア」を得るなかなか無い機会となり、新たな取り組みとして検討したいという前向きな意向も示されました。限られた時間の中ではありましたが、各社の課題に対する共感と、身近な暮らしと環境の繋がりに気付く分科会となり、当初の目的である「自分ごと化」を達成することができたと思われる。



全体会、閉会挨拶、クロージング

- ・今回は、午後の部の開会時間の変更に伴い、終了時間を前年度の 16 時 30 分から 17 時 00 分に変更した。アンケート結果から、参加者から高い満足度が得られたことが分かった。
- ・全体会開始前の休憩・移動時間には、異なる分科会の参加者で構成される 4～5 人組のグループに分かれた。全体会では、これらのグループで交流を行った。
- ・参加者同士で簡単な自己紹介をした後、1 日の「ふりかえり」と「わかちあい」として、以下の設問に対するキーワードを書き出した。その後、グループ内で意見交換を行い、1 日の学びや気づき、思いを一人ひとりが整理し、共有した。
 - ① 自己紹介
 - ② 今、あなたがもやもや・ざわざわしていること
 - ③ 今日からやってみたいこと
 - ④ 今日の感想、その感想を誰に伝えたい？

- ・会場全体に向けて、自分が感じたことや共有したことについて、自ら発表したい方やグループ内での他薦により、フリップに書いた内容や想いを発表、共有した。会場全体が活性化し、多くの意見が交わされた。



全体会

閉会挨拶



集合写真

4. アンケート結果

Q. ブース展示の満足度を教えてください

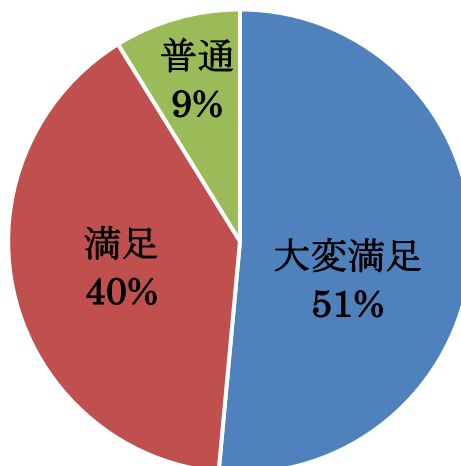


図 9. ブース展示の満足度 (N=68)

Q. ブース展示の感想を教えてください (※一部抜粋)

- 色々な活動があって勉強になった。新しい繋がりが出来ました。
- 時間制で発表を区切らず、自由な対話を通して出展者と関われるのがとても良かったです。
- 出展者の方の熱量が凄い。色々学べて楽しかった。
- 今回は、どの展示も力が入っていて目を引くものが沢山あった。展示されている方も熱心に話を聞いてくださる方が多い印象でした。
- みんな優しくて、私の話を聞いてくれたのが嬉しかったです。連絡先を交換したり、イベントに誘ってもらえたり最高でした。
- 学生さんががんばって発表していた。浅口の小学校で環境（水、ゴミ出し）などの学習をしていると教えてもらった。学生のいろんな取り組みや研究が見れて楽しかった。
- 普段接しない学生さんの活動をブースで知れることができて良かったです。
- これまで参加されていなかった団体のブースもあり、それを見ることができたのは興味深かった。
- みんな資料を用意していて自分の言葉で説明していてわかりやすく聞くことができた。
- ブース間のスペースが狭く感じた。
- さまざまな活動をしている団体があり、新しい情報やアイディアに触れることが出来ました。
- たくさんのジャンルがあって楽しめた。
- 今、伝えなければと思うことを、複数の人に直接伝えることができた。
- ブースに来て頂いた方にプラスチック資源の分別体験をしてもらって「知らないことが知れた」と喜んで頂いた。
- 活動内容の説明だけでなく、実際に体験してもらうことで、より理解してもらえたのではないかと思います。

Q. 分科会の満足度を教えてください。

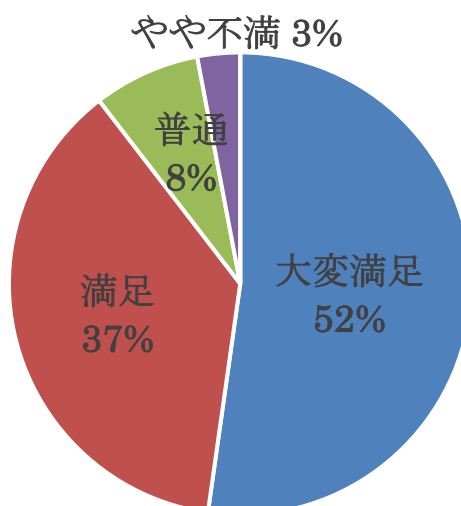


図 11. 分科会の満足度 (N=67)

Q. 分科会の感想を教えてください。（※一部抜粋）

- 企業の本音が聞けてよかった。声を届けることができて良かったです。
- 企業と学生とがアイデアを出し合うのが新鮮で楽しかった。
- 企業が何を考えているのか、何に関心を持っているのか、日ごろでは聞くことが出来ないことを聞くことができたのが良かったです。
- 企業の環境に関する取り組みや課題が知ることができた。
- 様々な立場の方の考えを知ることができてよかった。
- みんな生きてる感が伝わって、とても嬉しい気持ちになりました。ちょうど生き物図鑑が欲しかったので、持ち歩ける図鑑が GET できました。活用します。
- 専門家の視点からのお話が興味深かったです。
- 紹介して頂いた「じぶんごとプラネット」発見がありそうです。
- 最後時間が足りなくなってグループワークができなかったのは残念でした。
- 選択肢が溢れている現代だからこそ、何をどのように選択していくかが大事。江戸時代の人々のくらしの知恵、考え方（生み出す）から学べる点は、現代の我々にとっても多々ある。今の当たり前を見直して、「考える」ことのできる、よい時間になった。
- 企業の課題解決のために世代関係なく、みんなでアイデアを出し合ったワークショップが楽しくて。企業にはぜひどれか実現してほしいと思うのと、その後の経過を知りたい。
- 一方的に話を聞くだけでなく、全員で一体となって活動に取り組めた。批判的な視線で物事を考えることができた。
- 一方的な講義ではなく参加型だったので新鮮で良かった。
- 「気候変動と健康」については、あまり情報を知らなかったので勉強になった。気候変動は地球規模の話とか、遠くの話のように言われることが多いが、とても身近に迫っている危機であることを再確認した。
- ファシリテーターの存在が未来の子供達へ与える影響がとても大切だと感じました。素晴らしい方にお会いでき感謝しています！

- グループ同士の共通点を探すところから始まり、江戸時代と今の暮らしから考える SDGs。初対面の人と対話をしながら、考える、とてもおもしろい会で視点が広がりました。人によっての興味関心を様々な視点からアプローチして、それぞれの人に引っかけた話のパターンを自分の中で準備していきたいと感じました。
- 他の分科会も参加したかったです。

Q. 全体会の満足度を教えてください。

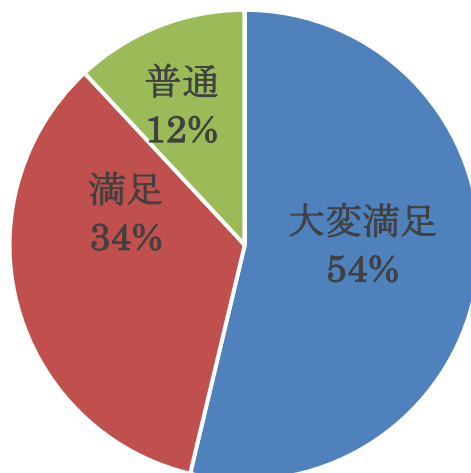


図 12. 全体会の満足度 (N=67)

Q. 全体会の感想を教えてください (※一部抜粋)

- 活力をもらった。
- 皆さんと関わって良かった。
- グループで話せて振り返りに良かった。
- 地球温暖化に対し、各分科会でそれぞれ感じたことを知れてよかった。
- 高校生、大学生のモチベーション向上につながっていると思います。是非、継続して下さい。
- もやもやをシェアできて良かったです。
- まだ今日話したことがない人を知ることができて良い時間でした。
- 年代が違っていても同じ志を持つ者同士、お互いの話を認め合い、話しやすいグループでした。
- グループで共有した際に「初めて参加したが、とても楽しかった」と言っていた、高校生のキラキラした眼差しが大変印象的だった。
- 深く交流でき良かったです。
- 初めて高校生の率直な感想を聞くことが出来た。
- ここが一番楽しい交流の時間だからもっと長いほうが楽しめると感じた。
- 別の分科会の話や回れなかったブースの話を聞くことができたのが良かったです。ここで新しい情報を得ることが今回は多かった。対話が一番情報を得られる。
- 分科会とは別のメンバーで参加して社外のいろいろな人との交流が出来て新鮮だった。

- 若い人たちの熱い想いが聞けてよかった。
- 若い方達の感想が聞けて良かったです。
- この全体会のあとに、みなさんのブースまわれたらいいな・・・。

Q. 本ミーティングに参加して新しいつながり、知識、スキルなどが見つかり、次のアクションについて、手ごたえやヒントが見つかりましたか。

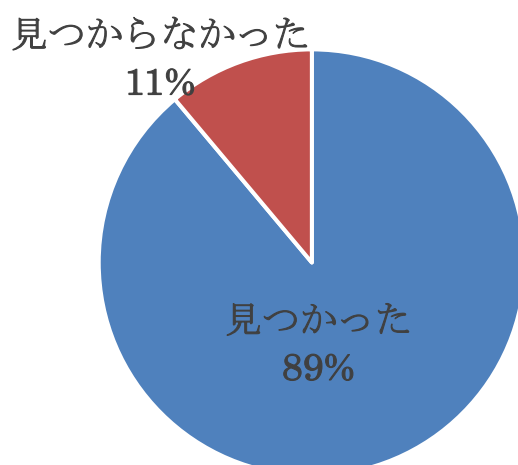


図 13. 新しいつながり、知識、スキルなどが見つかり、次のアクションについて、手ごたえやヒントが見つかったか (N=90)

【見つかった手ごたえやヒント（一部抜粋）】

- 生徒の探究心の向上。来場者との交流を通じた知識や視点の広がり、課題の発見。環境への関心や進路意識の向上。
- リサイクルでの燃料を作っていることをしれました。
- プラゴミを減らそうと言うのは浸透しているが、使う責任を持ってもらうにはいい機会と感じた。
- 身近にあるマイクロプラスチック製品の例を上げてお話すると驚愕される方が多かったので次回はその話も取り入れられたら良いと学びがあった。
- いいアプリを紹介いただきました。
- 中国電力への見学をしたいと思います。
- スキル。
- 企業と話し合うことで、企業が困ってること、社会に不足しているものを知ることができると思った。
- 今まで見えなかった考え方や、新たな学びが沢山できた。
- これからもこういった活動に参加したいと思えた。
- 日頃の行動が環境に与える影響について考えるきっかけとなった。
- 環境支援。

- 未来を変えるヒントは、ちょっぴり前の時代にあると確信しました。
- かけ算で考える（△環境問題だけについて考える、○環境問題×健康など）。
- 当たり前を見直す、無自覚を自覚する。
- 観光モデル事業の OSSU に取り組んでいます、ブース出展で参加したい、連携したいという声が沢山いただけて、またヒアリングにも伺いたいと思います。
- 環境教育に関する事業で、協働出来そうな新たな出会いが複数ありました。
- 「気候変動×健康」をテーマにした学習企画。じぶんごと化しやすい自身や家族の健康から地球温暖化の主因である温室効果ガスの削減を考える学習会（これも一つの方策として）の検討。
- 相手の質問にすぐ答えられるように自分の言葉のバリエーションを増やしたいと思った。
- 楽しめるアプリを知れて今後の活動へ活かすことができるか興味深い。
- 各バス会社の取組や、水島臨海鉄道の取組など、知らないことが多く非常に参考になりました。またキャラクター制作をしてはどうかなど具体的な意見もでて、実現してみたいと思います。
- 地球温暖化防止も大切だが、教育も大切だと思います。
- 知らないと、考えることもできないことを知った。
- パーソナルカラーを初めて知ったので、自分をよく見せるために、色を工夫したいと思った。
- 気候変動対策に本気で取り組んでいる人と出会えた。
- 研修、セミナーでは全員参加すること。一方的な講義ではないこと。
- マイクロプラスチックの体内除去法を考える。
- 興味関心の引っかけポイントのバリエーションを増やす。
- <自分の健康>が<地球の健康>と繋がっている…ことから環境問題に目を向けてもらえるきっかけになること！！
- 薬の利用は二酸化炭素の排出が大きいことを伝えることで、<薬>の害についても知ってもらうきっかけとなる。
- 地域との連携、活動を通して、もっといろんな人を巻き込んでみてもいいのではと思いました。せっかくの地域との連携がある校風だから、それを活かせる何かが出来ないかと考えました。

5. まとめ

【全体考察】

- ・ 今回のミーティングにおいても、ブース展示、分科会、全体会を通じて、多様な世代・立場の参加者が環境教育に関する実践や課題、思いを共有し、相互に学び合う機会となった。学校、地域団体、行政、企業、学生など、それぞれ異なる視点や経験に触れることで、参加者にとって新たな気づきや活動への意欲につながる場となったことがうかがえる。

- ・ ブース展示では、各団体が日頃から取り組んでいる活動を直接紹介することで、来場者が岡山県内における多様な環境教育・環境保全活動を知る機会となった。また、展示を見るだけでなく、出展者と来場者、出展者同士が情報交換を行う様子も見られ、活動内容の理解促進に加え、新たなつながりや協働の可能性を生み出す場としての役割を果たしたと考えられる。イベント後、出展団体であるノートルダム清心学園 清心中学校・清心女子高等学校と参加者が交流し、協働の可能性を探るため、参加者が同校を見学することとなった。また、出展団体同士がつながり、ノートルダム清心学園 清心中学校・清心女子高等学校の活動への参加や今後の活動模索をしている動きが聞かれた。
- ・ 分科会では、多くの場面で、参加者が主体的に考え、参加者同士で意見交換を行うことができたと振り返る。環境問題は身近な暮らしから地球規模の課題まで幅広く、一つの団体や世代だけで解決することは難しい。そのため、異なる立場の参加者が対話を通じて課題を共有し、それぞれにできる行動や今後必要となる連携について考えることには大きな意義がある。イベント後、分科会の参加者から「横田氏の話題提供を学校の子供たちへ聞かせてはどうか」と、学校関係者へ紹介する動きが見られた。
- ・ 特に、若い世代が活動や意見を発信し、それを多世代の参加者が受け止め、ともに考える場となったことは、本ミーティングの大きな成果である。子ども・若者の主体的な取組は、参加者に新鮮な視点や刺激を与えるとともに、環境教育を次世代へつないでいく上でも重要である。今後も、若い世代が参加しやすく、発表や交流を通じて自らの考えを発信できる機会を大切にしていきたい。

6. 実行委員会開催スケジュール、実施プロセス

●実行委員会開催スケジュール、実施プロセス

- ・5月8日 第1回実行委員会：開催方針共有、企画概要検討
- ・5月14日 開催決定案内、ブース出展者募集の開始
- ・5月18日 第2回実行委員会：分科会の実施内容検討、広報検討
- ・7月1日 一般参加者募集の開始
- ・7月6日 第3回実行委員会：分科会、全体会の実施内容
- ・8月19日 第13回おかやま環境教育ミーティング開催
- ・9月11日 第4回実行委員会：次の開催に向けたふりかえり

●主催および実行委員

主催：おかやま環境教育ミーティング実行委員会

岡山県、公益財団法人岡山県環境保全事業団

実行委員長 黒田 聖子（ノートルダム清心学園 清心中学校・清心女子高等学校）

副実行委員長 有吉 修亮（美咲町立柵原学園・特定非営利活動法人国際協力研究所・岡山（NPO ICOI））

実行委員 難波 妙子（高梁市成羽美術館）

長門 正憲（岡山ガス株式会社お客さま部カスタマーサービスグループ）

中西 正憲（アサヒ化工株式会社）

横田 啓（岡山協立病院・一般社団法人みどりのドクターズ）

日置三津子（ワークショップそらりす）

沼田 有貴（岡山大学大学院 大学院生）

高田暢々華（岡山大学 大学生）